

# 日本におけるキリスト教の歩み

## その1 伝来から繁栄期-2

戦

室

町

国

時

時

代

1

代

3

3

1

6

4

~

9

1

3

5

~

7

1

3

6

1

5

京の都で目的を果たせなかったザビエル一行は、一旦平戸に戻り、再び当時西日本最大の町山口へ赴く。1550年大名大内義隆より裁許状取得。大内義隆は、ザビエル等一行に大道寺を与えた。その寺は山口最初の教会となる。その後ザビエルは、山口の教会と信者をトルレスに任せ、大友宗麟の待つ豊後に戻る。ザビエル山口滞在僅か二ヶ月余、500人程に洗礼を授けた。受洗者の一人**盲目の琵琶法師ロレンソ**は、後に最も活躍する有名な伝道士となる。

山口に内乱が勃発。大内義隆に代わり毛利元就が大名となる。毛利は大のキリスト教嫌いであった。山口に残ったトルレスやフェルナンデス等は、山口での宣教に危機感を持ち豊後に引き上げた。また平戸でもキリシタンたちが追放。京都にいたロレンソ始め全ての宣教師たちは、一時、豊後に戻った。豊後に集結した宣教師たちは、ザビエルの後を引き継いだトルレスを中心に、大友宗麟の庇護のもと宣教を続けた。1551年11月豊後からインドに帰った**ザビエル**は、**1552年12月3日目指す**中国大陆を目前に**上川島で病に倒れ帰天**。

トルレスを頭とする宣教共同体に、もう一人の宣教師イルマン・アルメイダが来日。彼は医者であり、かつ商売のセンスも持ち合わせた修道士であった。早速、彼によって日本初の病院が建設。福祉活動のミゼルコルディアの組も設立。この組は福祉施設で奉仕する信心会でアルメイダの建てた病院の手伝いをした。

**1563年**横瀬浦(西海町)で大村純忠が洗礼を受け、日本で最初のキリシタン大名が誕生した。彼と共に20名の家臣も受洗したことから急激にキリシタンが増加した。同年ルイス・フロイスが日本に宣教師として到着。

同じ頃、五畿内(大和・山城・和泉・河内・摂津)では、宣教師ビエラとロレンソが熱心に宣教したが、僧侶たちの陰謀で都から追放。一旦、堺に退くも武将等から試練を受けることとなった。しかし、雄弁なロレンソにより武将等が次々に回心。その武将の一人の息子は、後のキリシタン大名高山右近である。その後、回心した武将の息子にパウロ三木もいる。宣教師ビエラとロレンソの活躍は、宣教師仲間を勇気付けた。そして遂に京の都に小さな教会を建てたのである。

F  
ザ  
ビ  
エ  
ル  
布  
教  
長  
の  
共  
同  
体

コ  
ス  
メ  
・  
デ  
・  
ト  
ル  
レ  
ス  
布  
教  
長  
の  
共  
同  
体